

夢を追う卒業生 その25 平成30年12月13日

大学で夢への道を探す

◇今回は、橋口天音さん（東京学芸大学教育学部教育支援課程）のレポートです！

はじめに

みなさんこんにちは、私は平成30年3月に卒業しました橋口天音と申します。今は東京学芸大学の教育学部 教育支援課程 表現教育コースの1年生です。大学に入ってからまだ時間はそんなに経っていませんが、この数ヶ月で経験したことを皆さんに少しでも紹介できたらと思います。

大学の紹介

先述したように、私は東京学芸大学に通っています。知っている方もいるかとは思いますが、学芸大は教育学部の単科大学です。しかし、様々な分野の教育者を育成しているため、大学全体の人数も多く、学生の個性も豊かです。

その中でも教育支援課程は平成27年に新設された、教育を支援する者の育成を主な目的にした課程です。多文化共生や、カウンセリング、ソーシャルワークなど、教員以外の立ち位置から教育を支える7つのコースで構成されます。そして私の所属する表現教育コースは、音楽、演劇、絵画などを初めとする表現活動の面から教育を支援する人材の育成を目指しています。教員免許は取れませんが、その分、様々な志を持った人が集まっているのは「表教」の特徴とも言えると思います。

大学選択の話

私は中学進学時に千葉県柏市から関市へ引っ越しました。その際、関の交通の便や娯楽施設の少なさといった不自由に加え、文化的な面での不自由さを感じました。観劇やコンサート鑑賞は名古屋や岐阜市内に行かないと十分にはできないため、関は新鮮な芸術に触れることが難しい環境であり、加えて経済的な理由や地理的な理由もあり、芸術活動の実行も難しいと感じました。

そういった関についての考えを「高校ぶうめらん」の編集を通してより深めました。そしてどうにか関をもっと文化や芸術の面から見ても素晴らしい街にしたいと考えるようになりました。そんな私に、表教の学びはとても魅力的に感じられました。

大学生活 ～授業編～

教育支援コースも教育学部ではあるため、教育に必要な基礎的な知識の授業はあります。例えば、憲法や人権についての授業などです。また教育支援課程、全てのコースの学びについて少しずつ勉強する授業もあります。春学期はそういった基礎的な科目が多かったです。

秋学期からは専門の勉強も増え、充実した日々を送っています。表教の授業は個性的なものが多いです。例えば、ワークショップのファシリテーションを学ぶ授業、即興演劇の技法を学ぶ授業、イギリス演劇、特にシェイクスピアの上演史を学ぶ授業などです。他の科と比べると授業の数も、課題の数も少ないのですが、その分自主的に様々な経験をして学んでいくということが重要になります。

大学生活 ～サークル編～

小中高と吹奏楽一筋だった私なのですが、現在は演劇サークルに所属しています。しかし、この演劇

サークルはほかの演劇サークルとは少し違います。映像作品を作ったり、パワーポイントを使ったパフォーマンスをしたりと、演劇という枠を超えて様々な表現活動ができるサークルなのです。私は先月の学祭では即興で替え歌を作ったり、盆踊りに合わせて楽器(?)を叩いたりと様々なパフォーマンスをしました。もちろん、皆さんが思う演劇も上演します。現在は来週に迫った公演の準備が行われています。

こんな不思議なサークルということで、所属している人も個性に溢れています。それぞれに目標ややりたいことがあって、公演に向けて準備をしたり、空きコマになんでもないような話をするだけでとても刺激を受けます。

最後に

このように書いてきましたが、私はひとつ困難を抱えています。上京と同時にパニック障害を発症したことです。今はだいぶ普通に生活できるようになってきましたが、春学期はとにかくギリギリの状態でした。学科の友人やサークルの仲間、家族、高校までの友人にもたくさん助けてもらいました。

今、私はやりたいことをやれているから、病気を抱えながらも毎日充実した生活を送れているのだと思います。高校のうちは進路についてたくさん悩むはずですが、しかし、たくさん悩み抜いて自分のやりたいことを見つけられたら、頑張れるし楽しめると思います。自分の納得できる道を選ぶよう、ぜひ様々な経験をして、様々な視点で考えて、視野を広げてください。

最後になりますが、みなさんが素晴らしい未来へ歩んでいけるよう、東京からささやかながら応援しています。



入学して約 1 ヶ月、球技大会の時に学科の友達たちと。同期は 23 人中 21 人が女の子です。



学祭の盆踊り。サークルの同期。みんな着付けは初めてでした 笑